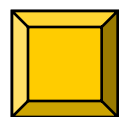


短期大学のインパクト —JJCSS2012より—

- 森 利枝 (大学評価・学位授与機構)
- 渡辺 達雄 (金沢大学)
- 相原 総一郎(大阪薫英女子短期大学)
- 山田 礼子 (同志社大学)





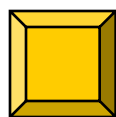
発表の構成

1. 調査の概要
2. カレッジ CHOICE と進路
3. キャリア意識と進路
4. 評価指標と学習アセスメント



1. 調査の概要

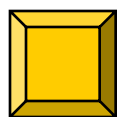




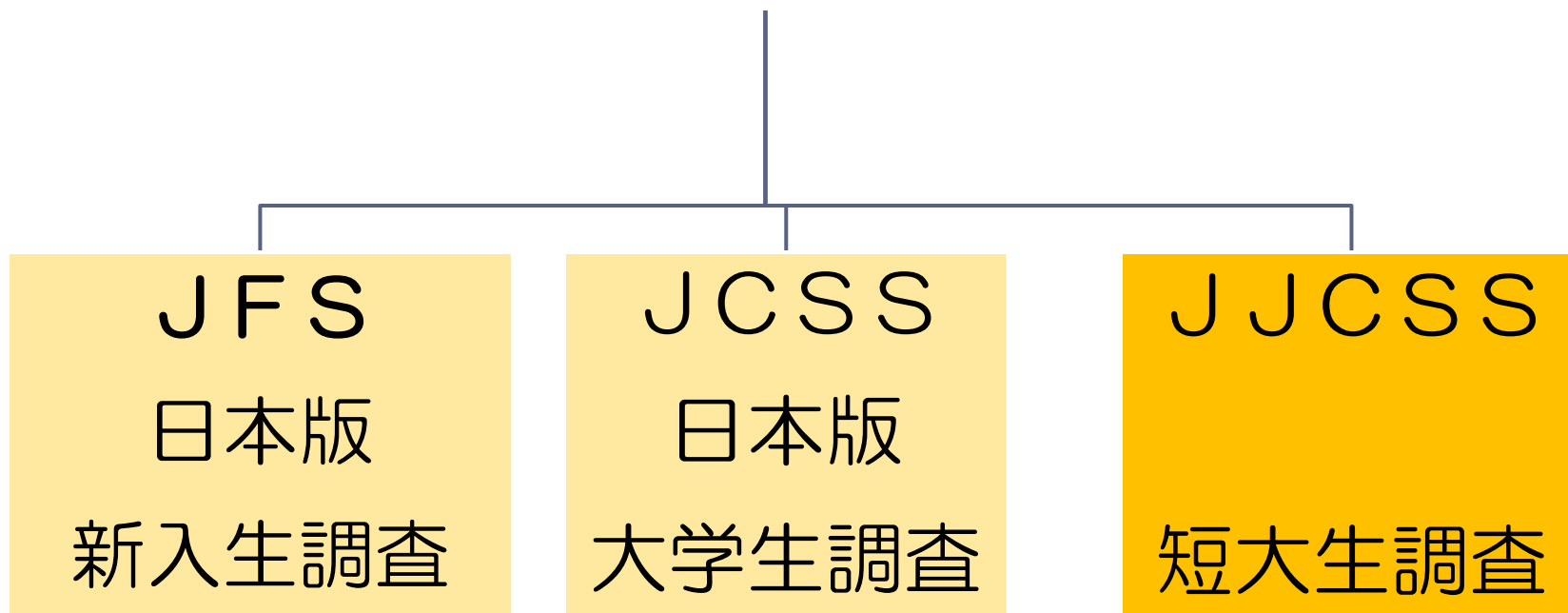
JJCSS（JCIRP短大生調査）の成り立ち

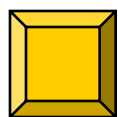
- ▶ JCIRP（Japanese Cooperative Institutional Research Program）
日本版共同大学調査研究プログラムとは
 - ▶ 範型はアメリカのCIRP
 - ▶ CIRPは現在UCLAの高等教育研究所が主宰
 - ▶ 日本の学生の生活・学習実態，価値観を調査
 - ▶ 汎大学で実施中
- ▶ JJCSSはJCIRPの中でも特に短期大学の学生を対象に実施
- ▶ 短期大学基準協会の調査研究委員会「短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究」とJCIRP研究チームが協同





JCIRPの構造





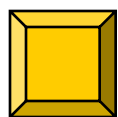
JJCSS 2012の概要(1) (同志社大学・堺完による)

- ▶ 多肢選択型の質問紙調査
- ▶ 短大生の学習状況，価値観，能力の向上の自己評価，満足度，将来への希望など37問
- ▶ JJCSS 2008から継続する第5回の調査

実施年度	2008	2009	2010	2011	2012
参加校(校)	9	30	23	34	29
参加者(人)	1,991	7,219	7,368	9,637	7,102

※ 短期大学基準協会会員校323校に調査を案内(2012年現在)





JJCSS 2012の概要(2) (同志社大学・堺完による)

▶ 29短大・7,102名の内訳

[性別]

- ▶ 6,676名が女子学生 (94.3% ; 全国割合88.7%)

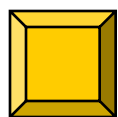
[学年別]

- ▶ 1年生 : 3,235名 (45.7% ; 全国割合47.1%)
- ▶ 2年生 : 3,637名 (51.4% ; 全国割合49.3%)
- ▶ 3年生以上 : 196名 (2.8% ; 全国割合3.6%)
- ▶ その他(科目等履修生など) : 10名 (0.1%)

※ 全国割合は「平成24年度学校基本調査」による



2. カレッジチョイスと進路

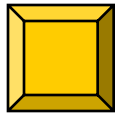


進学モチベーションの変化 (%)

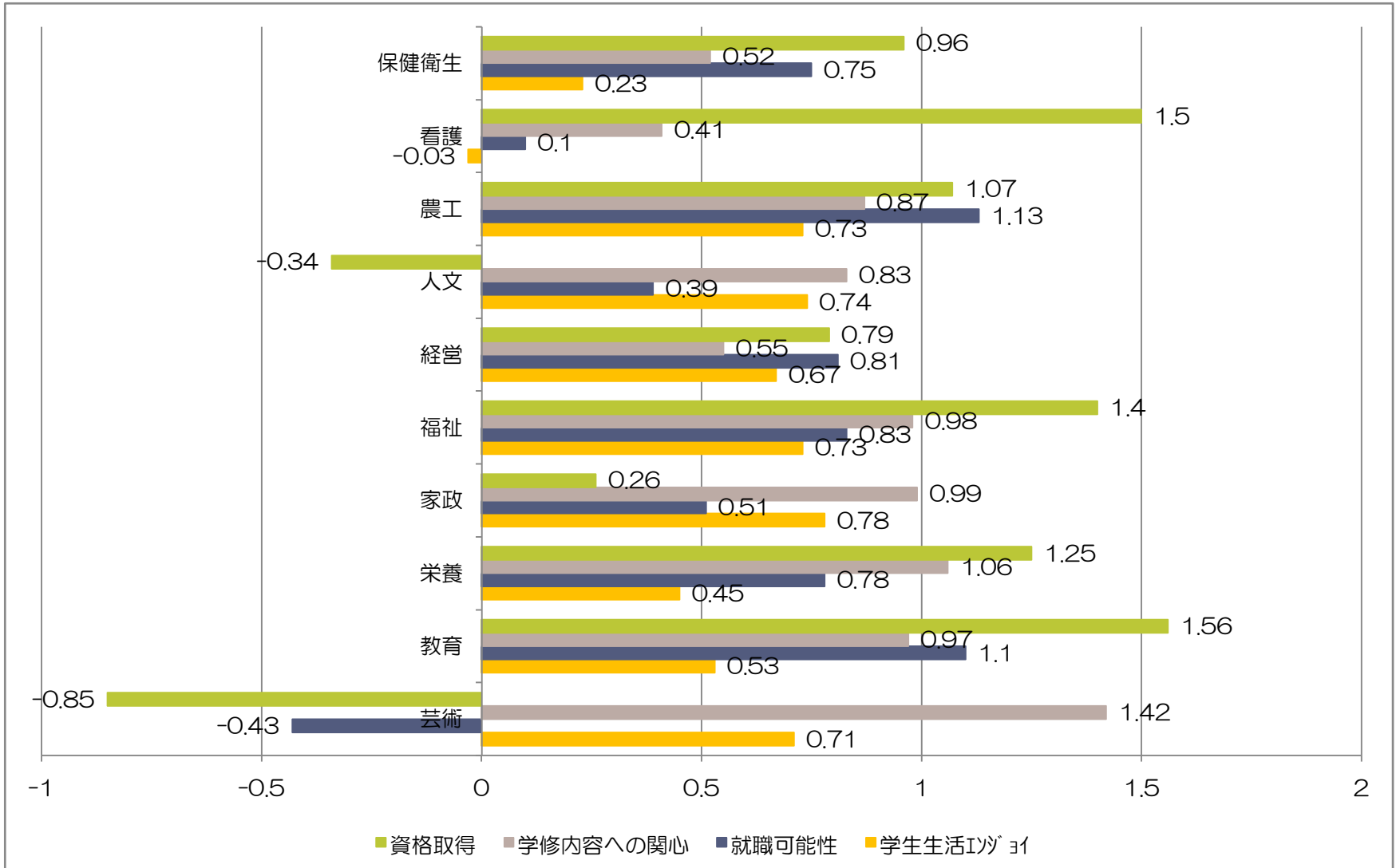
	JJCSS 2009				JJCSS 2012		
	とても重要	ある程度重要	累積		とても重要	ある程度重要	累積
学修内容への関心	41.0	37.2	78.2	資格取得	59.0	22.4	81.4
資格取得	48.4	26.7	75.1	学修内容への関心	41.6	36.4	78.0
学生生活エンジョイ	33.6	39.1	72.7	就職可能性	42.5	34.1	76.6
就職可能性	31.2	35.4	66.6	自宅通学可能	44.2	25.4	69.7
自宅通学可能	39.6	25.8	65.4	学生生活エンジョイ	28.6	39.2	67.8

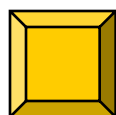
*調査参加者・調査参加学科は2時点で異なっている



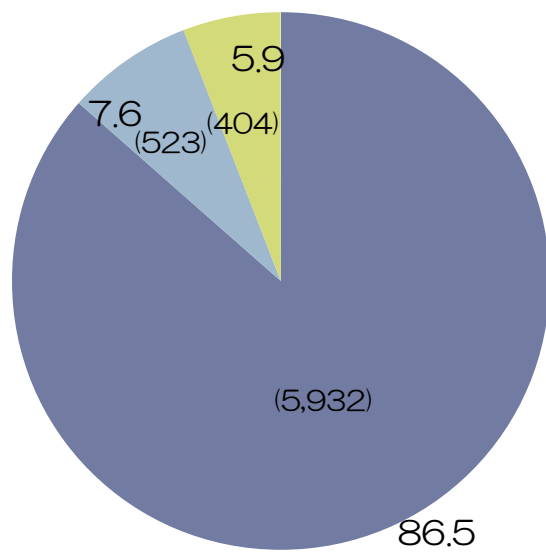


進学モチベーション（JJCSS専攻分野別・得点）





希望する最終学歴 (JJCSS2012・%)



■短大卒 ■専攻科修了 ■大学卒・大学院修了

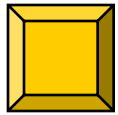
全調査参加者中

専攻科を持つ短期大学からの参加者： 38.4%

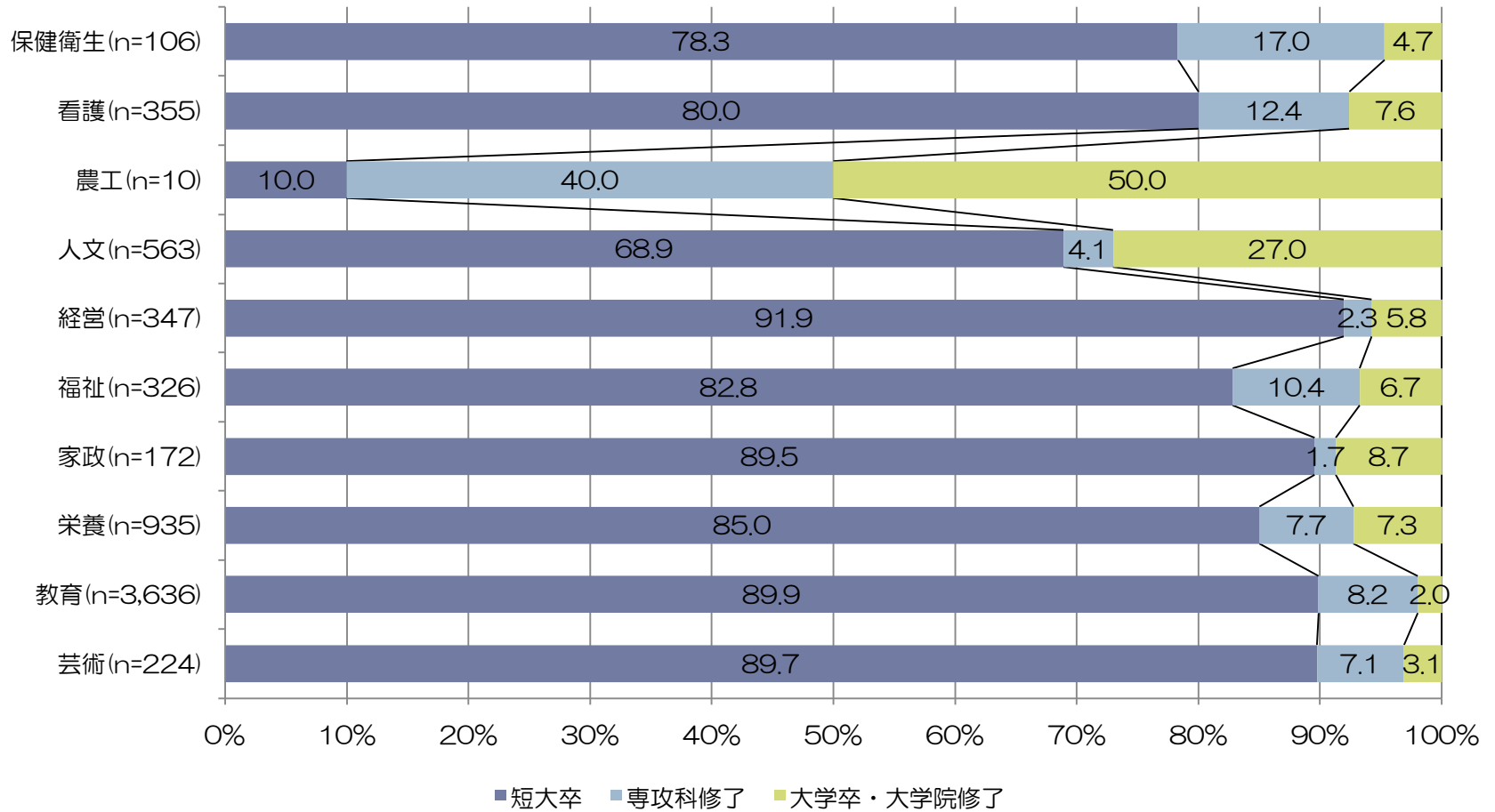
系列四年制大学を持つ短期大学からの参加者： 84.0%

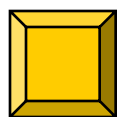
上記両者を持たない短期大学からの参加者： 14.1%



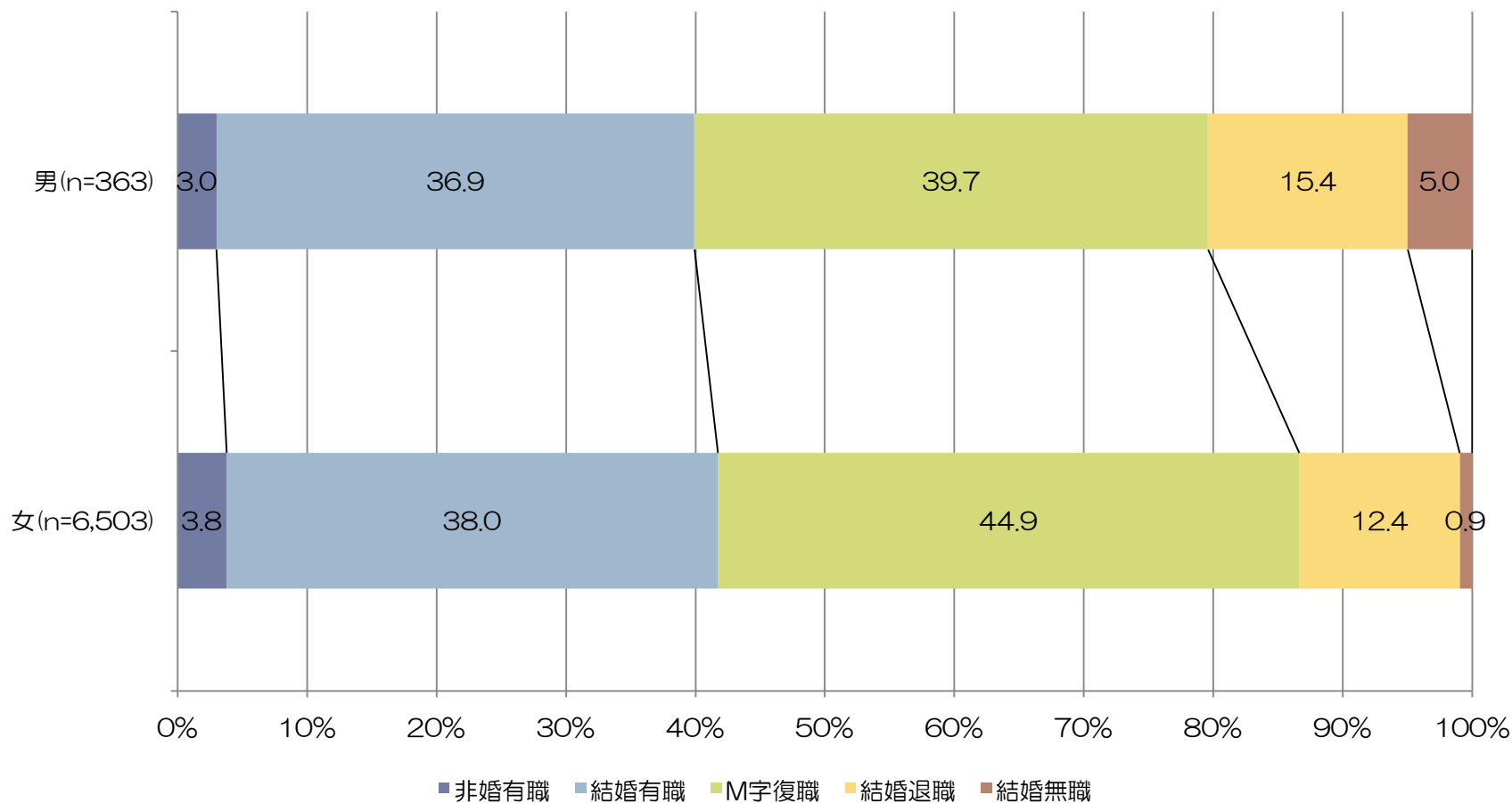


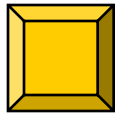
希望する最終学歴（JJCSS2012専攻分野別）



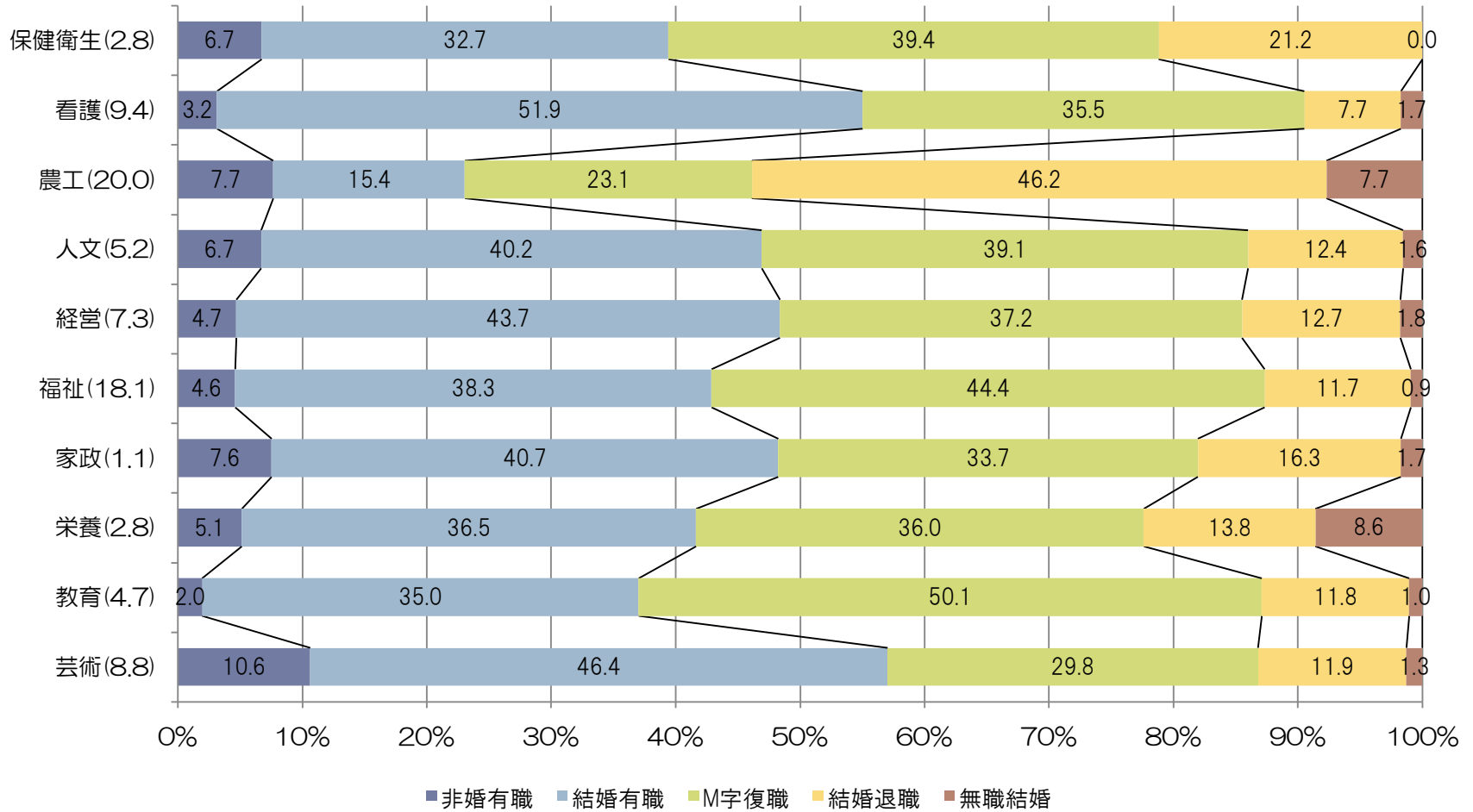


女性のライフスタイル理想 (JJCSS2012)





女性のライフスタイル理想 (JJCSS2012専攻分野別)



*専攻分野ごとの括弧内の数字は調査参加男子学生の構成比



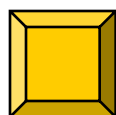
小括

- ▶ カレッジチョイスにおける，資格取得／就職可能性への関心・学習内容への関心という動機に高まり
- ▶ 学生生活を楽しまたいという動機は2009年調査に比して弱まっているが，「傾向」をいうには時期尚早か
- ▶ 学科系統による短大生活への期待の差
- ▶ 学科系統ごとのキャリア意識・進学希望の特徴
- ▶ 個別短大における，ライフスタイルに関する理想を読み込んだキャリアガイダンスの可能性
- ▶ JJCSSパネル調査への期待



3. キャリア意識と進路





キャリアで重視する要素

	まったく重要でない	あまり重要でない	少し重要	とても重要
社会を変えるための仕事	11.8%	39.7%	39.1%	9.4%
高収入の可能性	4.8%	26.2%	50.8%	18.2%
世間的な知名度や地位	12.2%	43.7%	36.1%	8.0%
生活の安定や保証	1.9%	8.6%	43.6%	45.8%
創造性や独創性	7.9%	32.5%	44.2%	15.5%
自己を表現する仕事	6.2%	26.2%	47.3%	20.3%
自由な時間	2.6%	13.5%	47.7%	36.2%
リーダーシップを発揮できる可能性	12.9%	43.1%	34.9%	9.1%
さまざまな領域の仕事をする可能性	10.5%	37.4%	40.3%	11.9%



キャリア観の類型

メリット型

理想志向低 × 実利志向高 1695人
(24.7%)

欲張り型

理想志向高 × 実利志向高
1624人(23.7%)

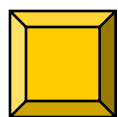
クール型

理想志向低 × 実利志向低
1785人(26.0%)

夢追い型

理想志向高 × 実利志向低
1761人(25.7%)

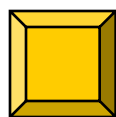




属性との関係

	欲張り	夢追い	メリット	クール
高校の成績 (上位の方)	11.9%	11.5%	14.0%	10.9%
第一志望	77.2%	78.3%	77.6%	76.7%
公立高校出身	70.2%	66.8%	72.0%	71.6%
女性比率	92.9%	93.8%	95.3%	94.7%
指定校推薦入学 (n=2649)	22.8%	25.5%	24.9%	26.8%
公募推薦入学 (n=1327)	22.8%	22.9%	28.3%	26.0%
AO選考入学 (n=1138)	25.1%	28.4%	20.9%	25.6%

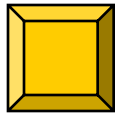




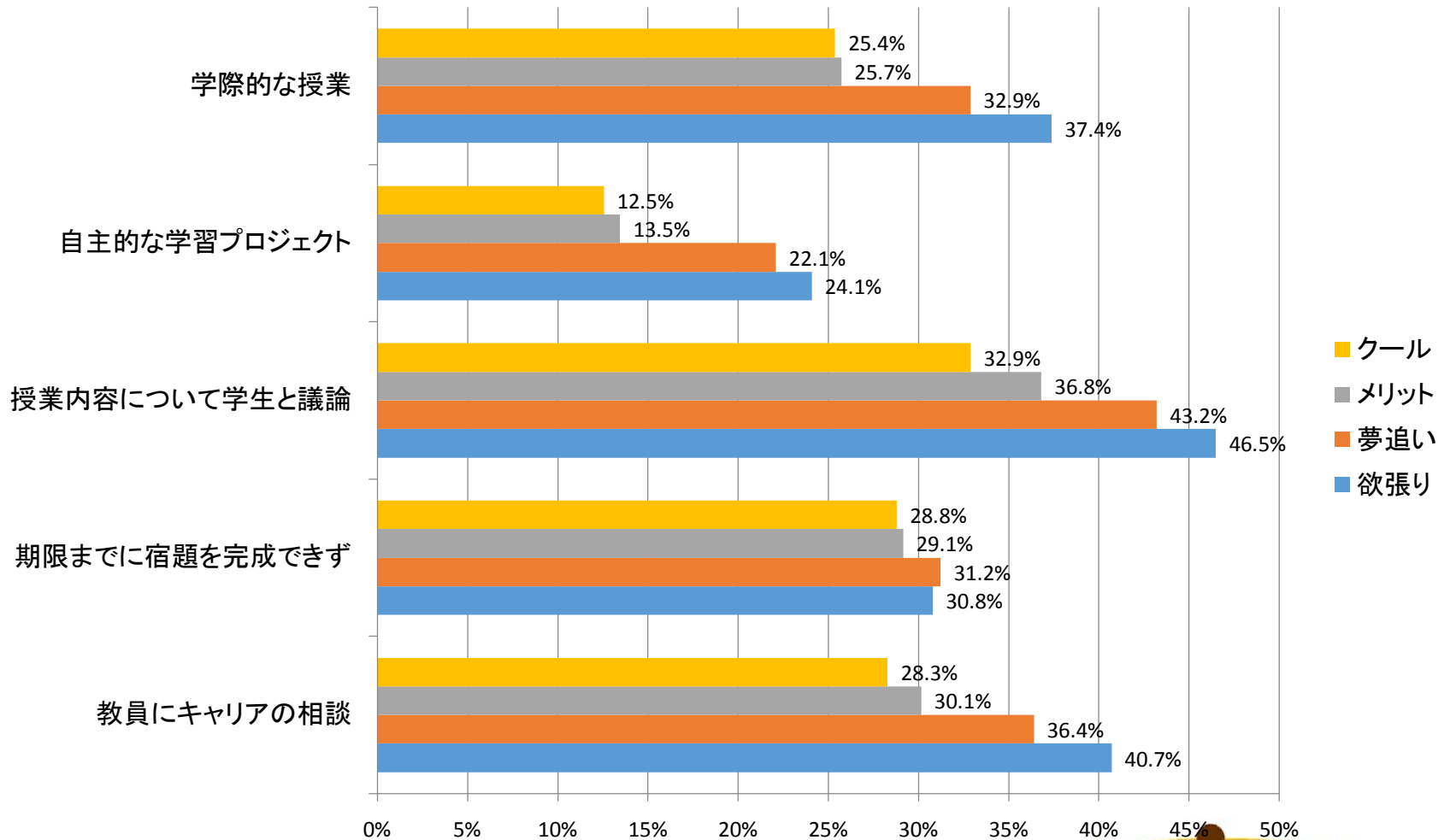
専門分野ごとのキャリア意識

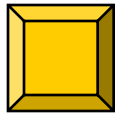
専門分野	欲張り	夢追い	メリット	クール
保健衛生	25.7%	26.7%	21.9%	25.7%
看護	23.6%	18.7%	28.5%	29.3%
人文	32.8%	21.3%	27.8%	18.2%
経営	20.3%	22.9%	31.8%	24.9%
福祉	30.0%	23.6%	20.0%	26.4%
家政	24.7%	22.4%	34.1%	18.8%
栄養	24.4%	21.0%	29.5%	25.2%
教育	21.7%	28.96%	22.09%	27.3%
芸術	30.5%	21.6%	17.8%	30.1%



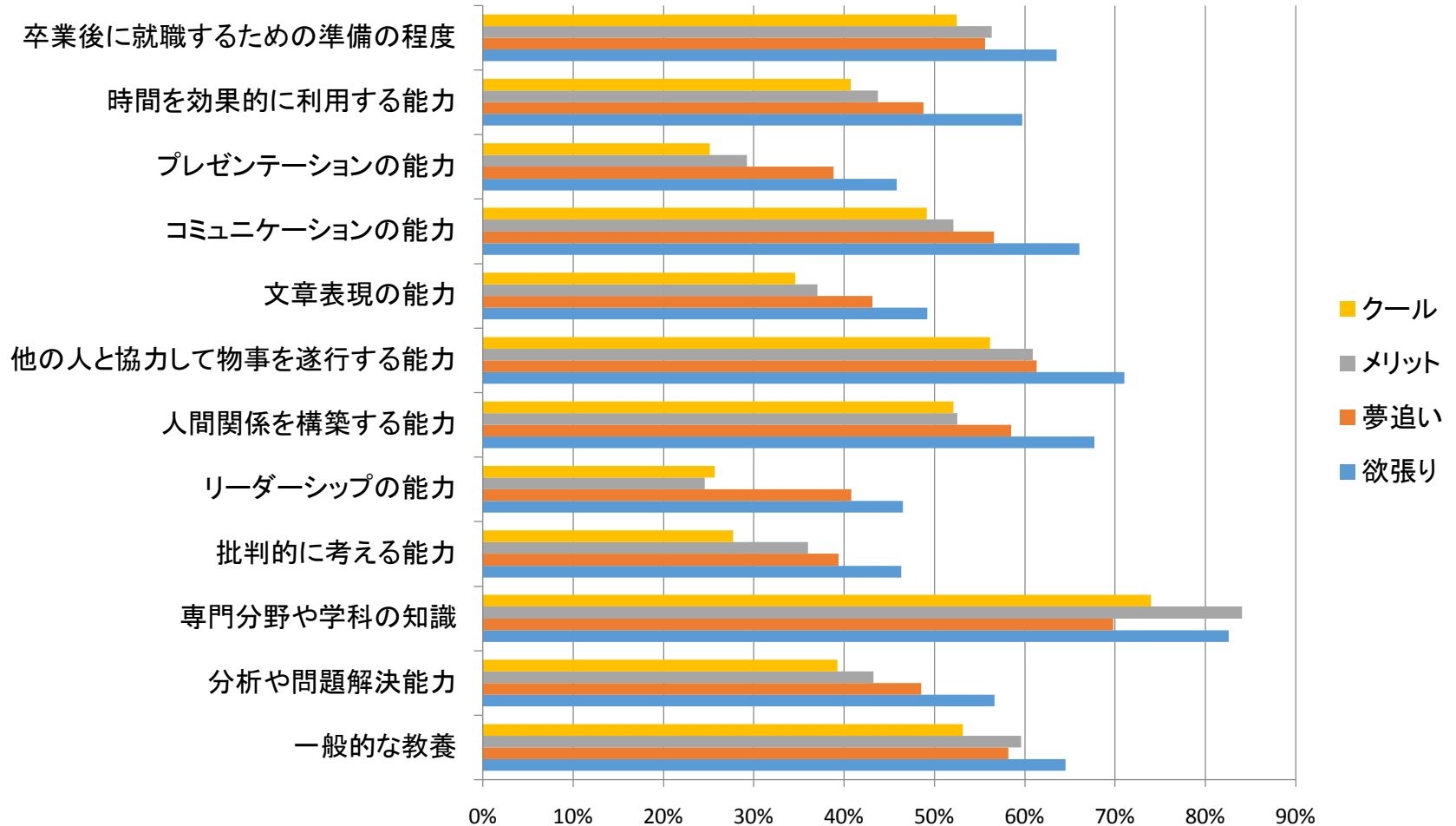


学校における経験との関連

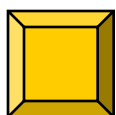




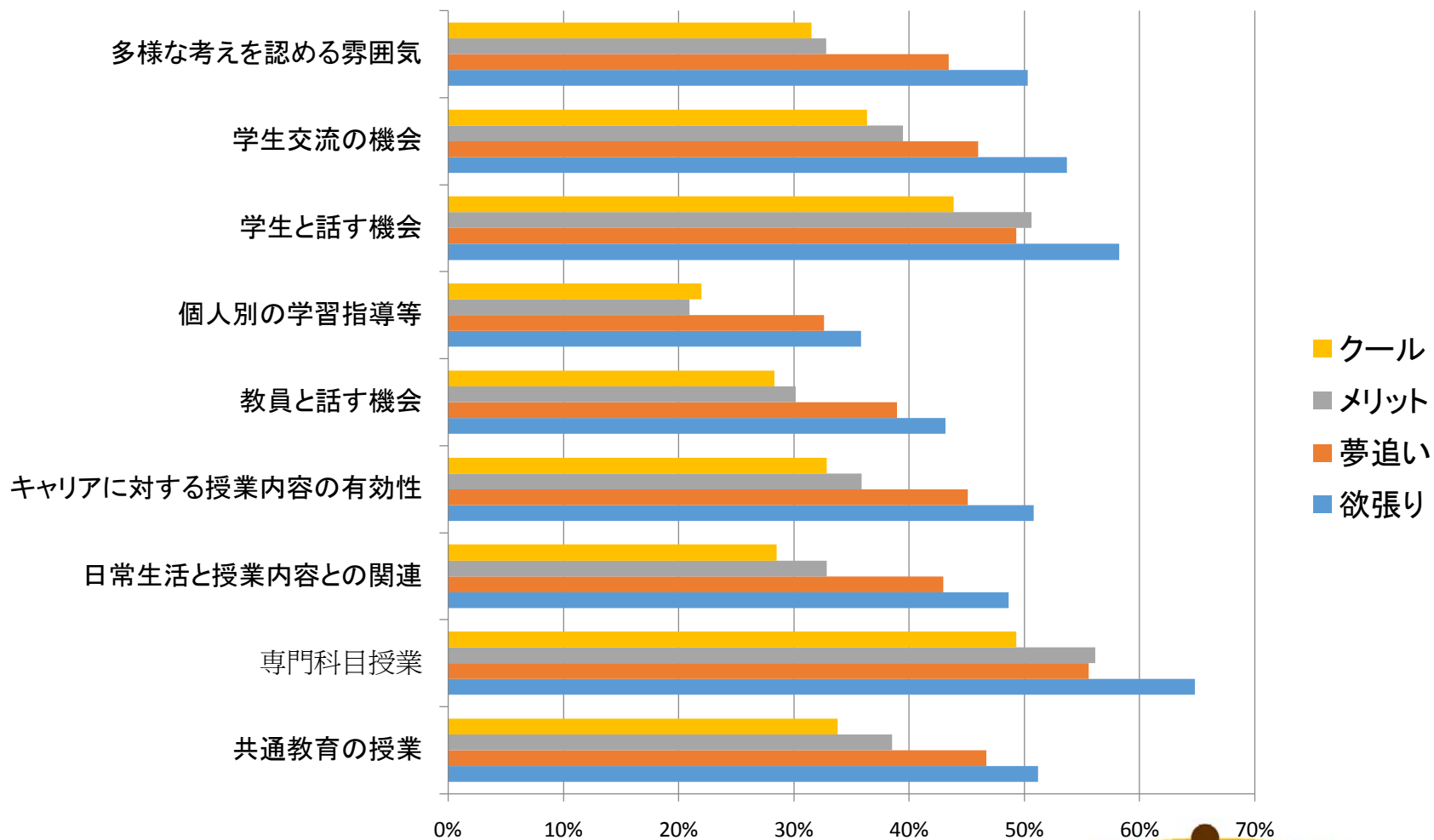
入学時と比べた能力変化

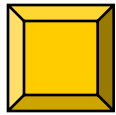


「大きく増えた」と「増えた」の合計

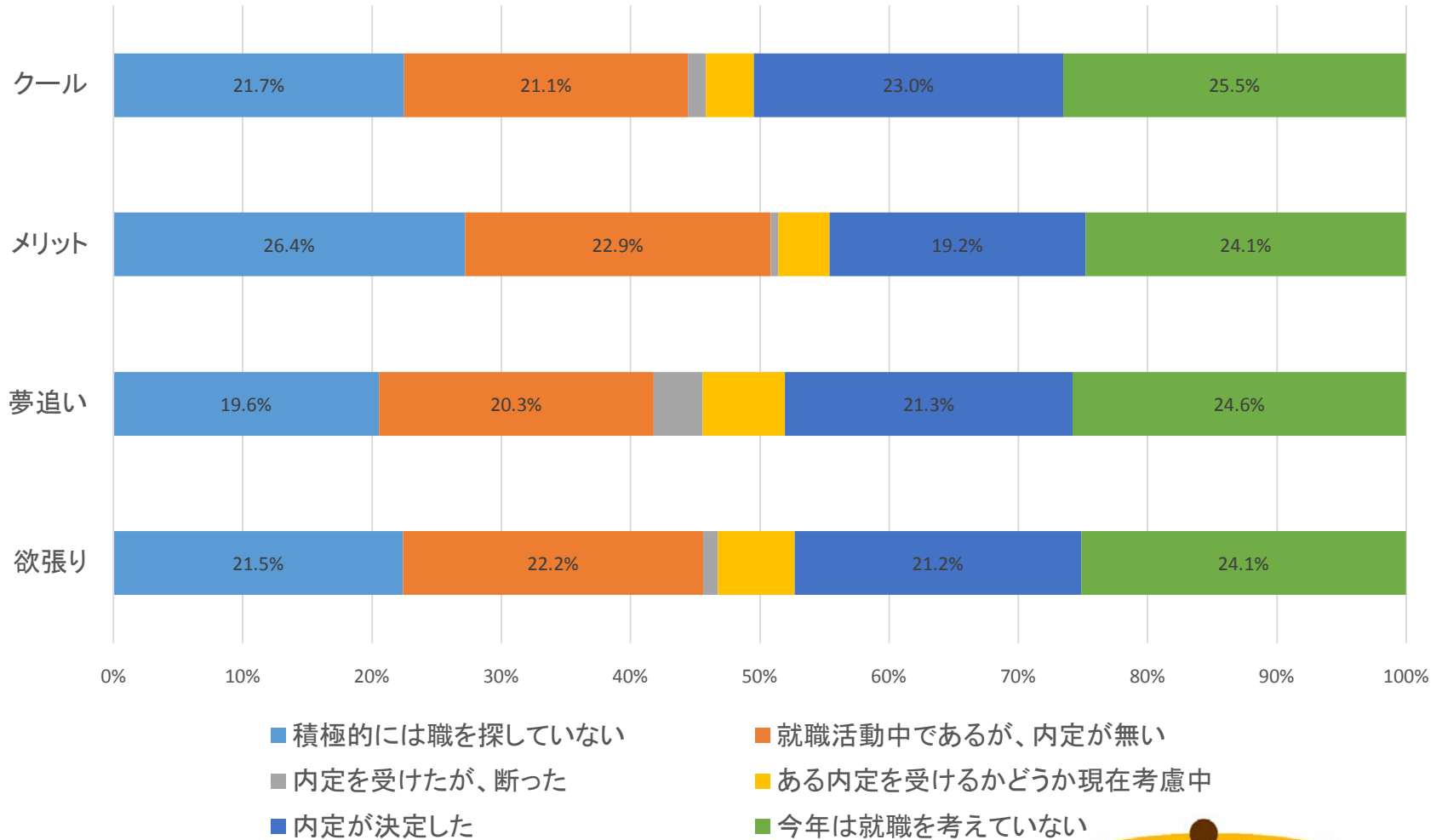


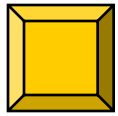
学生生活の満足度との関連





就職に関する現状



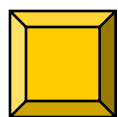


小括

- ▶ キャリア選択において、「生活の安定や保証」「自由な時間」「高収入の可能性」、「自己を表現する仕事」を重視（(2008年度調査の傾向と共通））。
- ▶ 欲張り型のキャリア観をもつ学生は、人文・福祉・芸術分野に多く、メリット型学生は、経営・家政・栄養分野に多い。
- ▶ 自主的な学習プロジェクトへの参加や授業内容について議論した学生は、欲張り型、そして夢追い型が、それ以外の学生より割合が多い傾向。
- ▶ 入学時と比べて能力・知識の変化した（高まった）と感じる学生は、クール<メリット< 夢追いく欲張り の順に多い。
- ▶ 学生生活に対する満足度は、夢追い・欲張り型の学生の方が、全体的に高い傾向。



4. 評価指標と 学習アセスメント



学生調査への課題

- ▶ 質保証システムに位置づける(小方 2006)
但し、大学教育実践の豊かな個性と共通性を両立させる
- ▶ 過程モニタリングができる(金子 2009)
- ▶ ベンチマークができる(小林 2011)
- ▶ 国際比較ができる(山田 2010)
- ▶ 方法の信頼性(山田 2011)
一方、米国では
- ▶ 「学生の学習を評価するよい実践の原則」
“Principles of Good Practice for Assessing Student Learning” (AAHE 1992)



JCIRP評価指標の開発

▶ 米国の評価指標

▶ NSSEベンチマーク

▶ CIRP構成概念

☆ CIRP構成概念の手順(項目反応理論:IRT)を採用
評価項目は相原(2013)を参照のこと

▶ JCIRP評価指標の枠組

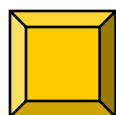
▶ アステインのI-E-Oモデルと関与理論

▶ ハータド、テレンジニ、クーなどの先行研究

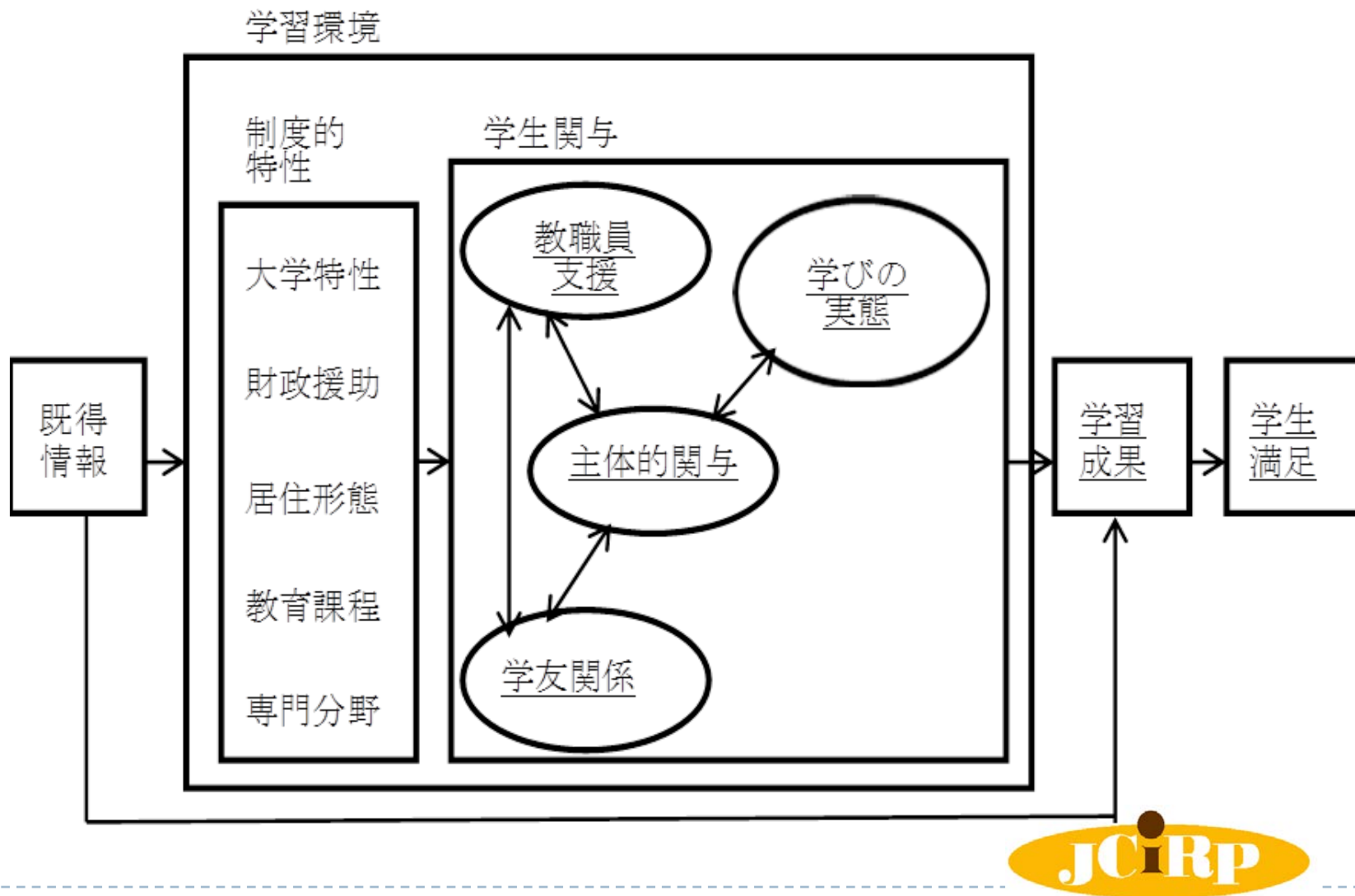
▶ 学生エンゲージメントの心理的側面を追加

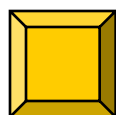
☆ 拡張I-E-Oモデルを開発





JCIRP評価指標の枠組 図4-1





JCIRP評価指標の有効性

表4-1

学習成果と学生満足度の規定要因分析

	(1)知識技能			(2)人間関係			(3)現代社会の理解			授業満足度			大学満足度			
	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β	
既得情報	性別ダミー	-0.10	0.05	-0.03 *	0.09	0.05	0.02 *	-0.11	0.05	-0.03 *	0.00	0.04	0.00	-0.03	0.04	-0.01
	第1世代学生ダミー	-0.01	0.02	-0.01	0.01	0.02	0.01	-0.05	0.02	-0.03 *	0.00	0.02	0.00	-0.02	0.02	-0.01
	高校成績	0.03	0.01	0.04 ***	0.03	0.01	0.04 ***	0.02	0.01	0.03 *	-0.01	0.01	-0.02	0.00	0.01	0.00
	第一志望ダミー	0.05	0.02	0.02 *	0.03	0.02	0.01	-0.04	0.03	-0.02	0.19	0.02	0.08 ***	0.31	0.02	0.16 ***
学生関与	教職員支援	.132	.013	.138 ***	.113	.013	.114 ***	.108	.013	.114 ***	.169	.011	.161 ***	.123	.010	.133 ***
	学友関係	.138	.012	.148 ***	.284	.012	.293 ***	.088	.012	.094 ***	.535	.010	.521 ***	.415	.010	.459 ***
	主体的関与	.175	.013	.177 ***	.158	.013	.154 ***	.130	.014	.133 ***	.168	.012	.155 ***	.167	.011	.175 ***
	学びの実態(1)能動的学習	.099	.013	.092 ***	.063	.013	.056 ***	.114	.014	.107 ***	-0.05	.011	-0.04	.011	.011	.010
	学びの実態(2)学業の怠慢	-0.13	.013	-0.13	.022	.013	.020	.013	.013	.013	-.055	.011	-.048 ***	-.064	.010	-.063 ***
	学修時間	.032	.005	.073 ***	.032	.005	.070 ***	.027	.005	.062 ***	.010	.005	.021 *	.007	.004	.017
定数	-0.14	.059	*	-0.32	.059	***	0.05	.061		-0.16	.051	***	-0.24	.047	***	
R ²		.170		.221			.106			.482			.432			
調整済みR ²		.168		.220			.105			.481			.431			

注)* 5%水準で有意, ** 1%水準で有意, *** 0.1%水準で有意

性別ダミー(男性=0,女性=1)、第1世代学生ダミー(家族に大卒・短大卒がいる=0,いない=1)、高校成績(1=下位の方, 2=中の下くらい, 3=中くらい, 4=中の上くらい, 5=上位の方)、第一志望ダミー(第1志望=1,第2志望以下=0)、学生関与の教職員支援,学友関係,主体的関与,学びの実態(1)能動的学習,学びの実態(2)学業の怠慢、学習成果の(1)知識技能,(2)人間関係,(3)現代社会の理解、そして学生満足度の授業満足度と大学満足度は評価指標のz得点、学修時間は問18の1週間当たりの時間配分より「勉強や宿題」と「授業への出席」の合計から作成。8件の選択肢を0時間=0時間,1時間未満=0.5時間,1-2時間=1.5時間,3-5時間=4時間,6-10時間=8時間,11-15時間=13時間,16-20時間=18時間,20時間以上=23時間と変換。週休2日制として2項目の合計を5日で割った。

学科レベルの学習アセスメント

▶ 対象：教育分野1年生

19短大1653人(2短大の1人と2人は除外)

▶ 機関情報と既得情報

▶ 学科名称 幼児教育学科・保育科・こども学科

(例外：現代コミュニケーション・生活文化・社会福祉)

☆G短大 III部(3年制)課程 I部と区別できない

▶ 資格取得 保育士と幼稚園二種免許状は共通

▶ 募集定員 平均104人(220人～40人)

▶ 調査参加 平均82%(121%～44%)

* 募集定員を超える在学生数の学科有り



(1)機関情報と既得情報 知見

▶ 既得情報

▶ 女子学生率 平均93.7%(女子短大は3校のみ)

▶ 第一世代学生率 平均57.4%

多い: F短大(74.2%), O短大(81.8%), R短大(79.5%)

少ない: H短大(29.7%) ← 有名4年制大学相当

▶ 高校成績 平均3.01 (3.45~2.33)

▶ 第一志望 平均83.3% (91.8%~51.3%)

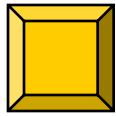
☆ 機関情報と既得情報: 知見のまとめ

学科名称はほぼ共通(例外は専攻レベルで共通)

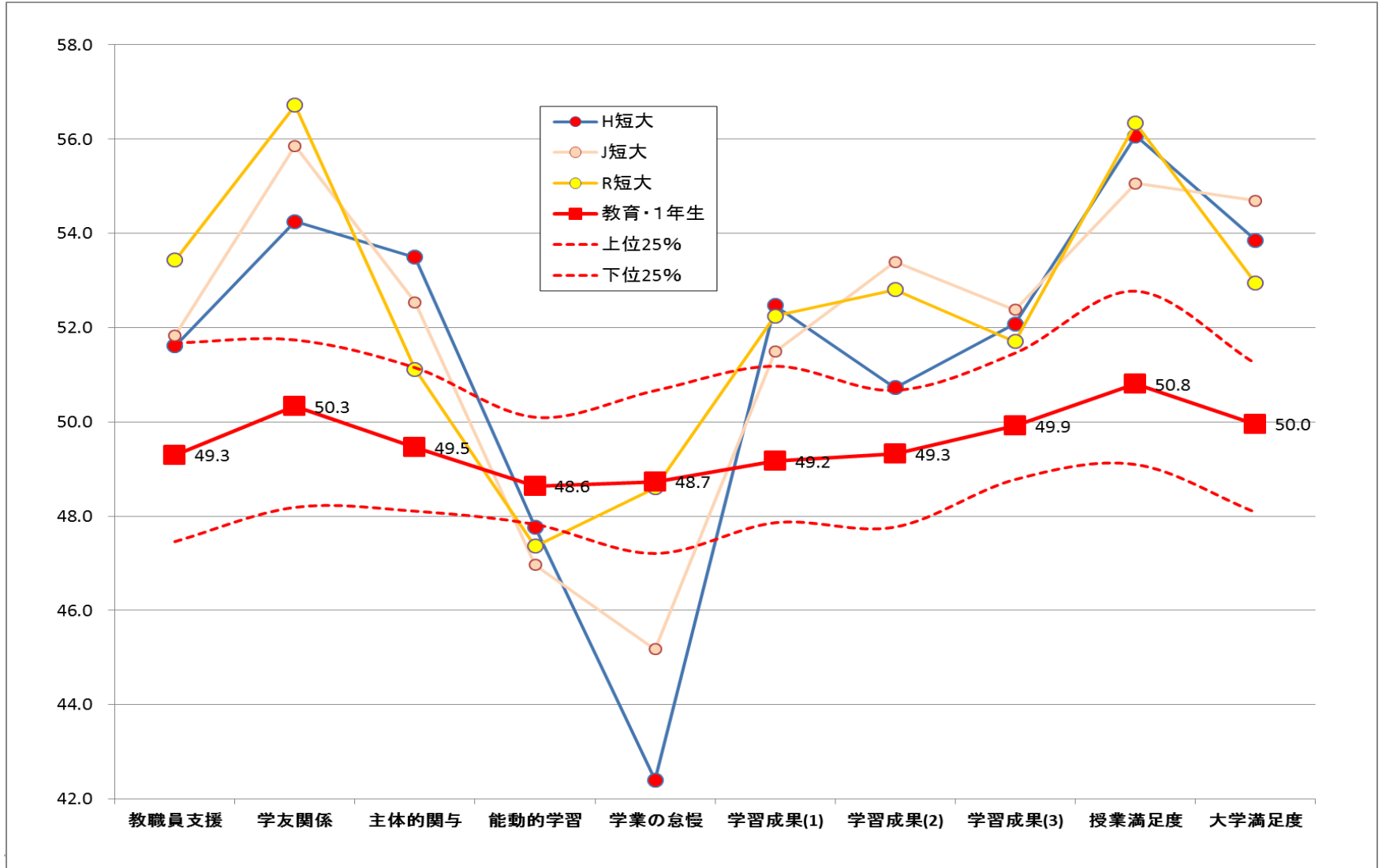
女子短大は3校。しかし、9割程度は女子学生。

学科規模、第一世代学生、高校成績、第一志望は短大間の差がかなり大きい。





(2) 評価情報：高得点グループ 図4-2



■ 小括(1)

- ▶ 評価情報の利用：**モニタリングとベンチマーク**
 - グループ内の比較、平均や上下25%との比較
 - ▶ 高得点グループ：ほとんどの指標で上位25%
 - ▶ 中得点グループ：上位・平均・下位の指標が混合
 - ▶ 低得点グループ：多くの指標で下位25%
- ☆ 教学マネジメント 学科での教育改善のプランへ
 - 下位25%から平均域に移動、平均域から上位25%に移動など
 - ▶ 自学科の経年の変化もモニタリングできる
 - ▶ 学生の属性(e.g.高校成績・志望順位など)で個別対応
 - ▶ 特定の指標(e.g.能動的学習・学修時間など)に対応策
- ☆ R短大は第一世代学生率が高い高得点グループ
 - 学友関係や授業満足度などの得点が高い。
 - 但し、学修時間は少ない。



■ 小括(2)

☆ 評価情報の注意点

- 質的なデータで補完する必要がある
(Ⅲ部の学生,男子学生,その他マイノリティ学生の意見聴取)
- 短大・学科には独自の伝統と文化がある
評価情報は内部での質保証の材料にすべき
- 低得点グループは既得情報の段階で不利な条件
(第一世代学生の高い割合,高校成績が低いなど)
しかし、地域の重要な高等教育機関かもしれない

引用文献

- 相原総一郎(2013)「短期大学生の学習過程の評価指標」『大学論集』44集,広島大学高等教育研究開発センター
小方直幸(2006)『学生からみた大学教育の質』COE研究シリーズ18 広島大学高等教育研究開発センター
小林雅之・片山英治・劉文君(2011)『大学ベンチマークの実証的研究』東京大学・大学総合研究センター
金子元久(2009)「大学教育の質的向上のメカニズム」『大学評価研究』8号,大学基準協会
山田礼子(2010)「大学教育の成果測定」Journal of Quality Education Vol.3,国際教育学会
山田礼子(2011)「大規模継続学生調査の可能性と課題」『大学論集』42集,
広島大学高等教育研究開発センター



総括(1)

短期大学のインパクト(JJCSS2012)の分析

▶ カレッジチョイスと進路

- ▶ 進学理由は「資格取得」「学修内容への関心」など
- ▶ 専門分野,性別,そして調査時点で差異

▶ キャリア意識と進路

- ▶ 「自己表現」や「生活の安定」を重視する学生が多い
- ▶ キャリア意識の4類型化(欲張り・夢追い・メリット・クール)

☆ 個別学生へのキャリアガイダンスの材料

☆ 継続調査で進学やキャリア意識のトレンドを把握



総括(2)

▶ 評価指標と学習アセスメント

- ▶ JCIRP評価指標の開発 拡張I-E-Oモデル,項目反応理論
- ▶ 学習アセスメント(教育分野1年生について学科レベル)

☆国際的に通用する評価指標を開発

☆過程モニタリングやベンチマークのツール

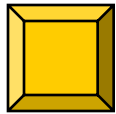
☆教学マネジメントの材料を提供

学習成果や満足度をあげる教育改善プランの作成

☆学生調査の発展と活用が望まれる

国際比較は今後の課題





ご静聴ありがとうございました。

短大生調査(JJCSS)の調査票、報告書等は下記の短期大学基準協会のURLで入手できます。

(http://182.93.116.213/service/other/research/jjcss/jjcss_sample_report.html)

短大生調査2012年(JJCSS2012)の報告書は早くて今月末の公開予定です。

